

横芝の碑

(その八十二)

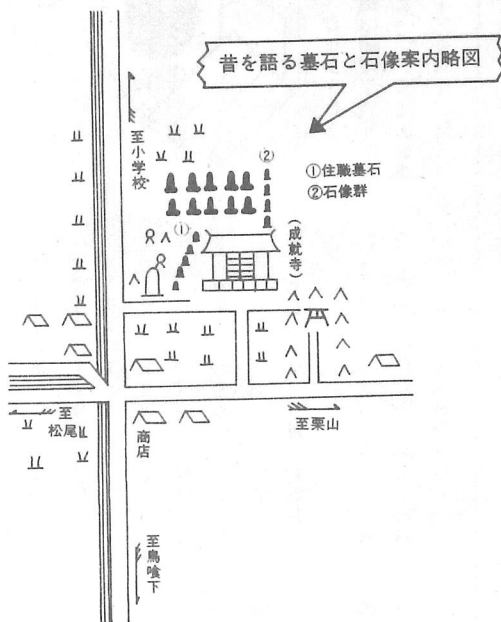
一つの碑となつて

昔を語る墓石と石像

俗に『新田の寺』と呼ぶ鳥喰の成就寺は、この地域に青年館が出来るまで地元の集いや役場の行事等に利用され、『明るい便利な寺』として親しまれて来ました。そして、最近境内に建立された寺伝の碑や町史に掲載された記事等から上野寛永寺に深いかわりを持つ由緒あることを認識されたことと思ひます。しかし、これを裏づける墓石や石像については余り知られていないと思ひます。



▲ 成就寺(鳥喰)の筒形墓石群



横芝町に現存する墓石や石像等のほとんどは宝永二、七〇四、一、古くても元禄(一、六八八)一、七〇四)以降のもので、それ以前のもので一基か二基が特異な形で建っている場合が多いようです。

歴代住職伝える

五基の筒形墓石

ところが、成就寺には、年号年次等の移り変わりがはっきり判る

ような墓石や石像が建っているのです。寺伝の碑に刻まれている開基の延宝六年(一、六七八)は別にして、本堂の裏に立ち並ぶ石像の中には、天和元年(一、六八一)西八月、常存信士、妙秀浄女と刻まれた石像や、元禄時代の墓石等が見受けられますが、紙面の都合で写真の掲載を割愛させて頂きます。掲載の写真は住職の墓石で、手前の宝塔形の二基を除いた五基(一基は宝塔形の更に手前奥で写真には入っていません)がそうです。そして、すべて称名の上には、大分磨滅していて判読し難いのですが、何となく崇福と読めそうな文字が刻まれています。しかし、当山、当寺院等と読むのかも知れません。さて、一番向こう側の墓石が開山住職のもので、開山香山巖

大和尚〇〇〇癸天九月、と刻まれています。〇の部分には判読困難な文字ですが、成就寺が創設されたという延宝六年(一、六七八)以降で癸(みずのと)の年といえます。天和三年(一、六八三)になりますので、香山巖大和尚は足かけ五年在職されたことが判ります。撮影困難なため写真には出ておりませんが、第二世住職の墓石に刻まれている文字は、中興玉稻瑳大和尚、貞享二(一、六八五)乙丑天六月等と判読できますが、これによりますと二世住職は足かけ三年という短い期間の在職と推察されるのに、称名の上に中興と刻まれているところを見ますと、堂宇建立等、何か大事業を成し遂げられた住職ではなかったかと思ひます。向こうから二基目の墓石は四世のもので、四世不変松大和尚〇〇、と刻まれています。下部の文字と年号は全く判読できません。その次の墓石も磨滅している部分もありますが〇〇〇大僧都祐賢、貞享五(一、六八八)〇辰天九月初。法印権大僧都賢昌、宝永三(一、七〇六)丙戌。と二つの称名の他、小さく僧都〇〇等と刻まれているのは、建立者の名称ではないでしょうか。そして祐賢が第三世住職で、賢昌は第五世だと思ひます。ただ疑問に思われるのは、次の、向こうから四番目の墓石です。これには三番目に併記されている賢

昌の墓石で、上部には第何世の文字はなく、梵字が刻まれ、その下には、法印賢昌、宝永三丙戌、と刻まれています。年号から見ましても同じ住職賢昌の墓石に間違いはないと思ひます。

なお、境内の別の場所に建っている墓石の年号に、元禄元年(一、六八八)三月、というのがあります。お気づきの方もあると思ひますが、西暦年表を見ますと、第三世住職祐賢の墓石に刻まれている貞享五年九月と同じ年で、この年の三月は貞享でしたが、途中で改元され、九月には元禄となつていたことも判ります。

第五世と思われる住職の墓石に少しの疑問は残りますが、墓石や石像がほとんど分散されず、また濫りに集結もされず、素材な付いのままお互いが一つの碑となつてその昔を語り伝えている姿を改めて評価したいと思ひます。(住職墓石の位置が庭木繁茂のため、撮影困難なので昨秋撮影のものを用いました。)

町文化財産委員会

小沢春光氏寄稿

